

## スタジオ「サイデラ・マスタリング」のご紹介

オノ セイゲン



オノ セイゲン氏

サイデラ・マスタリングの特徴とは、マスタリング、ミキシングという正確さを追求したモニター環境で作業できることに加えて、この空間でレコーディングにも対応できることにあります。パーティ合板の音響パネルを裏返し、サンプリング・リバーブを用いてコンサートホールのような響きをつけることができます！また、最近登場した日本製の画期的な吸音/遮音素材「SHIZUKA STILLNESS PANEL」と「AURAL SONIC」を全面に用いたことで限られた空間でありながら、とくに超低域の立ち上がりと音程感が実際の容積の6倍程度に感じられます。

4K、2Kの時代だと言うのに、音楽業界の高音質やサラウンドに対するこだわりやがまったくもって足りないと言えますね。1ビットDSDをはじめとするハイレゾリューションと、高さ方向も含むサラウンドの組み合わせによる収録と再現を体験さえすれば、誰にでも本来のレコーディング/オーディオとはこういうものであることが簡単に体験/確認できます。時代なのでしょう、サイデラ・マスタリングのクライアントの50%はアマチュアかインディーズなのですから、個人のスタジオやホームシアターなどの、空間音響デザインの依頼もお気軽にご相談ください。

### <主たる機材>

Sony SONOMA DSD Audio Work Station with EMM ADC/DAC (X 2 system)

Sony Sampling Digital Reverberator DRE-S777 (full option X3 unit)

Sonic StudiosoundBlade

Pro Tools | 10

KORG MR-2000S (X 4)

STUDER A-80, A-820

### <モニターシステム>

「PMC MB1」(x 5.1ch) ステレオ及び 5.1ch サラウンド

ECLIPSE「TD712zMK2」

ECLIPSE「508DMK3」10.1ch 高さ方向を含む立体サラウンド。

とりわけサラウンドでは、インパルス応答 1:1 になるべく近い、「正確な音」の再生を目指しています。高さ方向を含む 3D 空間を再現するには、レゾリューション(解像度)と、極力色づけないスピーカーは必須です。逆にステレオの場合は、制作現場では「正確な音」、リスニングには個人の好きな音色のスピーカーで楽しめばよいと考えています。

スタジオ「サイデラ・マスタリング」のホームページ <http://www.saidera.co.jp>